

リカバリー・退院支援・地域連携のための ストレngthモデル実践活用術

著：萱間真美／医学書院

定価：2200 円＋税／TEL：03-3817-5657

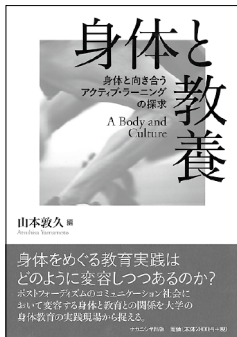
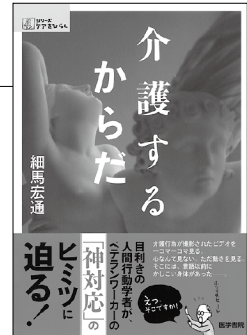
●「精神疾患を持つ人の意思決定支援 決定版」(帯より)。慢性疾患を抱えた人を地域で支えるために、その人の持つ強み＝ストレngthに注目し、その人らしさを支える看護技術、その理念である「ストレngthモデル」の実践活用を、わかりやすく解説する。「患者さんの願い」を言葉にして、図に描いて目標を立て、コミュニケーションを愉しみつつ、「その人だけのリカバリーの旅の地図」を手にする。これからの時代を拓く看護技術。

介護するからだ

著：細馬宏通／医学書院

定価：2000 円＋税／TEL：03-3817-5657

●「訪問看護と介護」誌への5年に及ぶ連載の書籍化。目利きの人間行動学者が介護現場の丹念な観察を通して見つけた「からだ」に表われる介護のかたち。「介護は、介護職員と認知症高齢者の双方が身体をそれぞれのやり方で動かすことで、初めて達成される相互行為なのである」(「はじめに」より)。感覚の異なる者どうしが、共同で何かを行うときの問合いやずれ、そこでの声かけや、やりとりの持続など、意識されない「からだ」のかしこい動きが、言葉で描き出されていく。



身体と教養

身体と向き合うアクティブ・ラーニングの探求

編：山本敦久／ナカニシヤ出版

定価：2800 円＋税／TEL：075-723-0111

●「教員は権威によって学生たちの前に立つのではなく、同じ学びの場でのコミュニケーションを通じて知の協働的な産出に参加する存在へとシフトする」(「序論」より)。わが国の近代教育は、physical education を身体教育ではなく体育とし、「教養」とは断絶したものとしてあつかってきた。体育分野に閉じ込められてきた身体を、教育・教養の領域に開放させる実践がさまざまに行われている。学びの場、学びの技法について考える人、必読の書。

「こつ」と「スランプ」の研究 身体知の認知科学

著：諏訪正樹／講談社

定価：1800 円＋税／TEL：03-5395-4415

●著者は、体で覚える学びの理論「からだメタ認知」の提唱者。「学びは、こつの体得とスランプの繰り返し」との認識から、身体知の言語化と、獲得した理論の身体化を結び付け、進化させることの重要性を説く。「研究のお作法(例えば、客観性や普遍性)だけに固執しては、生活の現実(「生きるとは何か」と言い換えてもよい)にはまったく辿り着けない(「あとがき」より)と、学問・研究の世界に一石を投じる。

